普通教室にエアコン設置を

健康福祉課の窓口風景

生活保護基準 エアコン設置

生保基準の引き下げは基本的人権の侵害では

答弁⇨ できる限り影響が及ばないよう対応していきます

田母神節子（たもがみせつこ） 議員

問 今年8月から3年かけ、生活保護基準が大幅に削減されます。96%の保護世帯に影響を与え、最大10%の削減で、とりわけ子育て世帯への影響は深刻です。また生活保護基準の引き下げは、さまざまな分野に影響を及ぼすと言われています。そのことで「今までと同じように制度の利用ができない」「負担が重くなる」と考えますが、いかがでしょうか。

答 国は、見直しに伴って影響を及ぼさないよう対応する考えの方針を出していますが、現在個々の影響については把握していません。

問 介護保険料・医療等々、40種類にも影響が及ぶ基本的人権にかかわることで、その対応を国は地方自治体に丸投げしています。当町の対応を伺います。

答 それぞれの制度にできる限り影響が及ばないよう国の方針を踏まえ、対応を図りたいと思います。

生活保護基準の引き下げ理由は

問 引き下げの理由について伺います。

答 一般の低所得者世帯と生活保護世帯の逆転現象、デフレによる物価下落分を反映させたものと認識しています。

問 逆転現象が起きたのは、雇用形態で非正規雇用が増え、当たり前に働いても低い賃金に抑えられ人間らしい生活ができない状態だからです。当町では憲法25条の立場で施策をどう行いますか。

答 町民の皆さんが安心して暮らせるよう、福祉のまちづくりに取り組んでいきたいと考えています。

小中学校へエアコンを設置した場合の費用は

答弁⇨ 概算で5億円です

峯岸克明（みねぎしかつあき） 議員

問 町内の公共施設（保育所、公民館など）及び近隣自治体の小中学校普通教室のエアコン設置状況について伺います。

答 町内では調査対象とした40ヵ所の公共施設のうち、38ヵ所でエアコンを設置しています。また、平成24年10月1日現在の県の調査では、普通教室のエアコン設置状況は、長瀞町・皆野町・横瀬町・美里町の小中学校では100%設置。深谷市で98.2%、熊谷市で96%です。一方、小川町・上里町・嵐山町では寄居町同様未設置です。

各小中学校の児童数と築年数は

問 エアコン設置に当たっては、老朽化した学校の建てかえや統廃合の計画も関係すると思います。そこで、各小中学校の児童生徒数と築年数について伺います。

答 寄居小310名・築39年、桜沢小257名・築43年、用土小239名・築30年、折原小87名・築41年、鉢形小289名・築42年、男衾小481名・築35年、寄居中458名・築24年、城南中227名・築19年、男衾中259名・築46年です。

今年度の小中学校生は合計2607名ですが、5年後には2202名に減少すると試算しています。建てかえや統廃合については、現時点で計画はありません。

問 小中学校にエアコンを設置する場合の費用及び効果について伺います。

答 普通教室・特別教室、計206教室に設置した場合、概算で5億円ほどと考えています。効果としては、夏季の教育環境の充実が図れると考えています。

行財政の中心となる役場庁舎

花によるまちづくりを

まちづくり 政治姿勢

町民と協働で、花いっぱいのまちづくりを

答弁⇨ 機会をとらえ、気運を高めていきます

鈴木詠子（すずきえいこ） 議員

問 寄居町を四季を通じて花の絶えない地域とすることで、従来の名勝地とともに、さらに花による魅力を兼ね備えた新たな観光資源が生まれます。また、その一連の取り組みを町民との協働で行うことにより、誰もがわが地域で花を楽しみ、わが町のよさを再発見できる新たなまちづくりの絶好の機会と考えます。鴻巣市・深谷市では、自治体として総合的な花事業を推進しています。現在行われているイベント、取り組み、今後の展開について、当町としてのお考えを伺います。

答 大きなイベントは金尾山つつじ祭り、エキナセア祭りなど、取り組みとしては「一年中桜に出会える町よりい実行委員会」の植樹活動に助成をしています。今後も必要と認める事業について、できる限り積極的に支援をしていきます。

問 遊休農地を生かした花づくりへの支援は。

答 ヘアリーベッチの種子購入費の助成や、転作を目的とした水田へのコスモス等の種子助成を行っています。

気運を高める考えは

問 オープンガーデンやガーデニング教室等、花づくりのスキルアップの機会をつくることで、協働の気運を高めていくお考えは。

答 今後、機会をとらえ、協働の気運を高めていきます。

問 公共施設の周りの花の植え込みや管理を町民ボランティアを募り、健康づくり・チャレンジポイントの対象としてはいかがか。

答 対象事業としての可能性について、今後、検討していきます。

町長の政治姿勢について

答弁⇨ 粛々と行っていきます

真下昇（ましものぼる） 議員

問 島田町長は行政の最高責任者として努力されてきたようですが、実際は事業を焦るばかりに独断的であり、町政への不安を感じさせています。それが大多数の後援会役員の辞任につながる大きな要因となったのではないでしょうか。

このような事態は前代未聞の出来事ですが、町民の皆様にも大きな衝撃と混乱を与えており、行財政運営に対して大きな不信感と不安を感じさせています。

3年前に、よいまちづくりをしたいとの一念で島田町長を誕生させた後援会が、このような事態となったこの現実をどのように受けとめ、感じているのか伺います。

答 一般質問は、政策・事務に関する見解を執行へ求めるものという位置づけですので、特に申し上げることはありません。

問 後援会が出した文書に書かれた批判内容について、お考えを伺います。

答 先ほどと同様に、特に申し上げることはありません。

今後の行財政運営は

問 町長を見守り育てる役目を果たすべき後援会がこのような事態となったことは、後援会の町長不信任宣言であると思われます。残りの任期は1年弱となりましたが、どのように行財政運営を行っていく心づもりなのか伺います。

答 それは議員の受けとめ方であると受けとめています。これまでと同様に粛々と行っていきます。